

「学力向上に関する講演会」より！国立教育政策研究所 千々布敏弥 総括研究官
**学校が学力に関して危機感を持つことは難しい！
だからこそ、学校の文化を変える必要がある！**

学力が停滞している学校に共通すること

- ▼学力調査の結果がよくないにもかかわらず、「調査結果が学力のすべてではない。」と言うが、明確な学力向上の方向性を示せない。
- ▼「特別な支援を要する子が多い。」「家庭環境が難しい。」などを理由に、できていない言い訳をする。
- ▼「やっていることはうちの学校も変わらない。」という自負心、「あれほどの取組はできない。」という劣等感を抱き、行動を起こそうとしない。
- ▼声の大きな職員との軋轢を避けるため、校長の依頼を断れない教員に業務や負担が集中している。
- ▼人員を変えることで一新を図りたいという思いが強く、組織を変えようと考えていない。
- ▼中途半端なマニュアル主義で、その通りにやればよいという考えを押し付ける。
- ▼教育委員会や保護者より、職員の意向を気にするあまり、校長のリーダーシップが機能していない。

学力が向上している学校に共通すること

- 目標に向けてのベクトルは共通だが、達成に向けての方法は微妙に異なることが認められている。
 - 学校全体で同じ方向を目指しているが、個々の独自性も重視される。
 - 「授業5」を大切にしているが、型にはめることにとらわれず、明確なねらいのもとで、ねらいを達成させる学習活動が多様に展開されている。

- 子どもも教員も校長等から授業を見られて指導助言を受けることが当たり前になっている。
○校長室が開かれており、また校長等が毎日教室を見て回り、学校全体の状況を把握している。
- よい授業が展開され、学校全体が落ち着いている。
○教員同士の同僚性が高く、教員と子どもとの信頼関係が構築されており、子どもが安心して学校生活を送れている。

第23号②

APを学校経営の柱に据えて組織的に取り組むことで、学校の文化を変えていきましょう！

令和3年度 《AP作成の手引き》

◎「☆」に関する項目

本年度
の重点

学校経営計画書のうち、「☆」に関する項目で、特に重点化したい目標を記入する。その際、ワンフレーズで示すことも効果的である。

達成目標（※指標を必ず記入すること）

焦点化した【現状】の課題を踏まえ、年度内に達成すべき目標を、「児童生徒が課題を解決し目標を達成した姿」を基に設定する。
その際、根拠となる調査種別と具体的な目標数値を記入する。

ギャップを埋めるための重点的取組

現状

学校評価や独自調査等を踏まえて、児童生徒の【現状】の「課題」を数値とともに抽出し、学年会や部会、教科会等を通じて教職員の眼で検証させ、その結果を共有するとともに、「課題」を焦点化し、次年度進むべき方向を全教職員で共通理解する。

重点的取組

目標を達成するに当たっての教職員の具体的な取組を、最大3項目（各枠に1つ）記入する。その際、児童生徒に目標達成に向けて取り組ませること（＝全教職員が絶対に取り組むこと）を具体的に記述することが重要となる。

取組の検証と改善が「連動」し、各期の結果を踏まえ、各主任等が連携・協議した上で提案し、教育課程等の具体的な取組に「反映」させることが重要。

取組指標・検証方法

【取組指標】
重点的取組の進捗状況、成果等の確認に資するものであり、数値で検証でき、かつ単年度で結果や推移が把握できるもの。

【検証方法】
重点的取組の進捗状況、成果等を「誰が」「何を」「どれくらいの頻度で」「どこまで」「どのように」確認するか（※）の「ものさし（尺度）」のこと。
年度途中で検証できるものにしておくことが必須。
※「重点的取組」か「取組指標・検証方法」のいずれかに具体的かつ明確に設定する。